

科目ナンバー	C7303	要件	教職必修	授業形態	演習	対象学生	I A B
授業科目	保育方法論						
実施期	後期	単位数	2単位	授業担当者	中田 章子・山村 悦子		

【科目の概要】

環境を通して行う保育の基本や保育内容の考え方、乳幼児期の発達特性、保育形態、行事活動の指導法、さらに情報機器の活用、小学校教育との関係などを通して、子どもの見方や考え方、一人一人の心身の発達を助長する保育の在り方について、個々にフィードバックを行いながら指導法や技術の基本を学ぶ。

【この科目を通して獲得を目指す力】

【関連DP】

ア	乳幼児の発達特性や豊かな活動・経験を援助するための保育方法について理解している。	1-d
イ	子ども主体の保育方法を考え、実践するために必要な基礎的な技能を身に付けている。	2-d
ウ	具体的に保育を組み立てて、実践に結び付けて考えることができる。	3-d
エ	子どもにとってふさわしい保育の在り方について関心を持ち、取り入れようとしている。	4-c

【授業の内容】

【実施日】

【授業時間外学習の内容】

1	本科目のねらい、計画、参加方法、評価等について	月 日	シラバス、教科書の前書きを読んでおく。(0.5時間)
2	我が国における保育実践の始まり・DVD視聴	月 日	保育所・幼稚園時代を思い出してまとめる。(0.5時間)
3	子ども理解と評価・DVD視聴	月 日	子ども理解についての留意点をまとめる。(0.5時間)
4	保育計画の実践と変遷	月 日	保育者によるPDCAサイクルを考える。
5	保育形態の多様化	月 日	保育形態のメリット・デメリットをまとめる。(0.5時間)
6	保育環境の充実	月 日	教育要領解説の「環境を通じた教育」について読んでおく。(0.5時間)
7	視聴覚機器の活用と発表	月 日	情報機器の現状や課題を調べておく。(0.5時間)
8	栽培活動の実際と演習についての意見発表	月 日	秋の飼育物や栽培などを調べておく。(0.5時間)
9	発達に応じた援助 (獲得を目指す力の確認)	月 日	幼稚園教育要領解説・保育所保育指針解説書の関連項目を読んでおく。(0.5時間)
10	配慮を要する子どもへの援助・DVD視聴	月 日	子どもへの対応と支援について考えをまとめる。(0.5時間)
11	園行事と生活の充実	月 日	奈良や身近な伝統行事などについて調べておく。(0.5時間)
12	家庭との連携と子育て支援	月 日	身近な子育て支援事業について調べておく。(0.5時間)
13	小学校との連携	月 日	指導方法などの違いを調べておく。(0.5時間)
14	保育所と幼稚園の一体化	月 日	認定こども園について調べておく。(0.5時間)
15	保育実践の深まり	月 日	自分の保育観をまとめておく。(0.5時間)
16	まとめと試験	月 日	

【教科書・テキスト】

【成績評価の方法】

「保育方法の基礎」 柴崎正行 編著 (わかば社)

受講態度20% 発表・提出物30%
筆記試験50%

【参考書・教材】

「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説書」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」
※その他の参考書については授業で随時紹介する。必要に応じて資料プリントを配付する。

【履修要件及び履修上の注意事項】

配布資料やワークシート等は各自ファイルを工夫し、活用を図ること。
グループで取り組む活動においては積極的に関わり他人任せにしないこと。

【履修上の遵守事項】

30分以上の遅刻は欠席とみなす。また、遅刻3回で欠席1回とする。

【連絡先・オフィスアワー】

連絡先:

オフィスアワー:

＜チェックシート＞					
指標		基準	レベル1	レベル2	レベル3
ア①	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」等における「5領域」とねらい・内容		「5領域」について説明することができる。	「5領域」と「ねらい」及び「内容」について述べるることができる。	保育の活動について「5領域」を関連付けて具体的に述べるることができる。
ア②	一人一人の発達の特性に応じた指導		乳幼児期の発達の特性、個人差などについて述べるることができる。	一人一人の発達の特性や、「発達の課題」に応じた指導について述べるることができる。	目の前にいる子どもの内面理解や必要な経験などを把握し、一人一人に応じたかかわりについて述べるることができる。
イ	「環境を通して行う保育」の意義と計画的な環境の構成		「環境を通して行う教育」における「環境」の捉え方を述べるることができる。	乳幼児期の発達特性を踏まえた環境について説明することができる。	「環境を通して行う教育」とはどのようなものであるか、乳幼児の発達特性と関連付けて説明することができる。
ウ	長期や短期の指導計画の作成		園の方針を踏まえた、長期や短期の指導計画に関心をもち、つながりを捉えることができる。	ねらい・内容、環境構成や援助など、子どもの姿や活動を予想しながら部分的な指導案を作成することができる。	反省・評価について理解し、子どもの実態に即した保育者の願いをもって、短期の指導案を作成することができる。
エ①	子どもの主体性を生かす活動の場面に応じた適切な援助と環境構成		主体性や子どもに応じた援助について考えを述べるることができる。	安全面や季節に応じた環境を構成したり、子どもの思いに沿った援助を考えたりすることができる。	子どもの主体性を生かす援助や環境構成について考えを述べるることができる。
エ②	小学校教育、特別支援教育、幼保の一体化など、これからの教育・保育に対する現状認識		小学校教育、特別支援教育、幼保の一体化などの現状について述べることができる。	小学校との連携、特別支援教育、幼保の一体化などの現状から課題を見つけ、述べるることができる。	小学校との連携、特別支援教育、幼保の一体化などの課題に沿った保育方法について、自分なりの考えを述べることができる。
この科目を通して学んだこと、獲得できた力、できなかった課題等					